



ぜぜようちえんだより



令和8年3月
大津市立膳所幼稚園
園長 村上 淳子

～一年間、ありがとうございました。～

早いもので今年度最後の『ぜぜようちえんだより』となりました。
今年度も地域の皆様には温かいご支援とご協力をいただき、心よりお礼申し上げます。

本年度は、地域の皆様とともに創立 90 周年をお祝いできましたことは感慨深く、心から嬉しく思っております。

また、地域の就学前施設として、日頃から多くの方々に見守られながら、子ども達は様々な人との関わりの中で豊かな経験を積み重ねることができました。民生委員・更生保護女性会の皆様には未就園児親子の活動にもご協力いただき、地域の方々に見守られているという安心感につながりました。

今後も地域の皆様のお力をお借りしながら、子どもたちの健やかな育ちのために職員一同努めてまいります。引き続き温かいご支援をどうぞよろしくお願いたします。

なお、裏面には今年度の膳所幼稚園評価のまとめを掲載しております。保護者アンケート、職員の自己評価をもとに、幼稚園関係者評価を行い整理したものです。今後の励みとするとともに、いただいたご意見を誠実に受け止め、子ども達の心豊かな園生活につなげていきたいと考えております。



「いっぱい飲んだら、苦いけど、少しずつ飲んだら、甘い！」とお抹茶の味を体感！



お抹茶体験（5歳児）

5歳児の子ども達が、いつも関わってくださっている細川さんにお抹茶体験をさせてもらいました。「お星さまからの贈り物」と話してもらった金平糖と一緒に抹茶をいただきました。細川さんがお茶を点てる作法から、長い歴史の中で育んできた日本古来の文化や伝統に親しみ、いつもと違う気持ちで甘味や苦みを感じながら、お茶をいただく時間でした。

ありがとうの気持ち

修了式を控えた5歳児の子ども達が、これまでお世話になった方へ「ありがとう」の気持ちを伝えたくて、修了式の練習にお招きしました。子ども達からは、手作りカレンダーと「ありがとう」の言葉を送りました。来ていただいた方から「これからも頑張るね」と温かい言葉をかけてもらいました。これからも、いろいろな人達に見守り支えていただいていることを忘れず、感謝の気持ちを持ち続けてほしいと思っています。



| | |
|-------------------------------------|--|
| 1. 幼稚園の教育目標 | |
| げんきな子ども さいごまで やりぬく子ども 心豊かな子ども | |

2. 本年度に定めた重点的に取り組む目標・学校評価の具体的な評価項目

| 重点的に取り組む目標 | 具体的な評価項目 |
|-----------------------------|--------------------|
| ① おもしろそうやってみて いを引き出す保育実践 | 自然環境を生かした環境づくり |
| | 幼児と一緒に遊びこむ教師の関わり |
| | 主体的に学び合う教員集団 |
| ② 家庭と共に育ち合う・地 域とのつながりの構築 | 家庭教育力の向上 |
| | 地域とのつながりや親しみが持てる活動 |
| | 幼保小連携・交流 |

3. 評価項目の達成及び取り組み状況 3・・・よくできた 2・・・できた 1・・・あまりできなかった 0・・・まったくできなかった

| 評価項目 | 結果 | 理由 |
|--------------------|----|--|
| 自然環境を生かした環境づくり | 3 | 園庭の豊かな自然を生かした保育を通し、子ども達は自然の美しさや不思議さを感じ、変化することから興味を持ち、図鑑やICTを活用し深く知る楽しさを実感しつつある。来年度は今年度の成果を踏まえ、発達を考慮した計画的な保育実践へと繋げる。 |
| 幼児と一緒に遊びこむ教師の関わり | 2 | 一人一人の幼児の思いに丁寧に関わり、安心感を築くことができた。一方で、個々に応じた具体的な指導が弱かったため、今後は記録やカンファレンスを通じた振り返りを重ね、日々の保育実践に活かしていく。 |
| 主体的に学び合う教員集団 | 3 | カンファレンス等を通して、多様な見方・考え方を共有することで幼児理解が深まり、保育改善に繋がった。教員間で思いを共有し実践できた経験を活かし、今後はより主体的に気づきやアイデアを出し合い、保育の質向上につなげていきたい。 |
| 家庭教育力の向上 | 3 | 様々な行事に参加することで、保護者自身が我が子の成長を実感し、育ちへの見通しを持つ機会となった。また、預かり保育の様子を写真で掲示することで、保護者の安心感と子どもとの対話を促進することにつながった。 |
| 地域とのつながりや親しみが持てる活動 | 3 | 地域と連携した90周年行事では、共に歩んだ歴史を実感し、新たな繋がりを築く機会となった。預かり保育における地域の方々との交流も、子どもたちに温かい触れ合いと刺激の場になっている。今後は、子どもも保護者も地域に愛着を持てるよう、その良さに触れる保育内容をさらに工夫していきたい。 |
| 幼保小連携・交流 | 2 | 5歳児は校長先生との関わりから小学校へ期待を寄せているが、研究会等での相互交流は実現できていない。今後は校長のリーダーシップの下、教員の参加意識を高め、体制を整える必要がある。次年度は、5歳児と1年生の育ちを子どもの姿から語り合い、相互理解を深める機会を重ねていく。 |

4. 学校関係者評価及び意見の概要

・職員自身も地域の文化に関心をもち、地域の催しへの積極的な参加をしている。幼児期から、地域と継続して関わることが親しみや愛着を持つことにつながり、地域の文化など継承につながる。

・園庭にある豊かな自然を活用して、興味を広げて遊ぶことで、子ども達の知的好奇心を育むことにつながっている。

・幼保小中連携を図ることは、時期や時間等の調整が難しいところであるが、互いに努力しようとするのが大切であると思われる。

・就学前から就学後につながる保育教育に有効な架け橋期カリキュラムの完成を望む。

5. 自己評価結果と学校関係者評価の結果を踏まえた、学校評価の具体的な目標の総合的な評価結果の概要

| 総合的な結果 | 理由 |
|--------|---|
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> 園内の豊かな自然環境を生かした子ども達の主体性を育む保育実践に努めた。四季折々の花や実などの自然に教師自身が意識的に五感を通して働きかけることで、子ども達は身近な自然に関心を持ち、気づいたことを豊かに表現するようになった。次年度は、今年度の実践を元に、子どもの姿をより深く見取り、次の日の具体的な環境援助につなげる等、計画的な指導の充実を図りたい。 幼稚園保育園小学校との連携においては、架け橋期カリキュラム作成に取り組み、子どもの姿を語り合い目指す子ども像を共有することができた。次年度は、実践を通して学び合い、カリキュラムの見直しや各学校の教育保育に生かす体制を構築していきたい。 |

6. 今後に向けて

- 園内にある豊かな自然環境を生かした教育の推進
- 幼児教育の基礎基本に立ち返った丁寧な環境・援助による日々の保育改善
- 地域や関係機関と連携した預かり保育等、子育て支援の充実
- 架け橋カリキュラムを共有による実践を通じた幼保小中連携体制の構築